

(提案11)

日本学術会議主催学術フォーラム「マスタープラン2014（仮）」の開催について

1. 開催日時 平成26年5月30日（金）10:00～17:30

2. 開催場所 日本学術会議講堂

3. 開催趣旨

本年2月28日、提言「第22期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2014）」が策定された。このマスタープラン2014で策定された研究計画を中心に全分野横断的に発表を行い、学術大型研究計画を周知するため、本シンポジウムを企画する。

4. 次第（予定）

司会：荒川 泰彦（日本学術会議第三部会員、東京大学生産技術研究所教授）

（挨拶・趣旨説明）

10:00 日本学術会議会長挨拶

大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長）

10:15 マスタープラン2014の概要

荒川 泰彦（日本学術会議第三部会員、東京大学生産技術研究所教授）

（各分野の講演）

10:40 人文・社会科学分野の展望と大型研究計画

佐藤 学（日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授）

11:10 臨床医学分野の展望と大型研究計画

樋口 輝彦（日本学術会議第二部会員、独立行政法人国立精神・神経医療研究センター理事長・総長）

11:25 基礎生物学分野の展望と大型研究計画

小原 雄治（日本学術会議第二部会員、情報・システム研究機構国立遺伝学研究所特任教授）

11:40 統合生物学分野の展望と大型研究計画

松沢 哲郎（日本学術会議第一部会員、京都大学霊長類研究所教授）

11:55 農学分野の展望と大型研究計画
西澤 直子 (日本学術会議第二部会員、石川県立大学生物資源工学研究所教授)

12:10-13:10 休憩

(各分野の講演)

13:10 食料科学分野の展望と大型研究計画
野口 伸 (日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院農学研究院教授)

13:25 基礎医学分野の展望と大型研究計画
大隅 典子 (日本学術会議第二部会員、東北大学大学院医学系研究科教授)

13:40 健康・生活科学分野の展望と大型研究計画
那須 民江 (日本学術会議第二部会員、中部大学生命健康科学部教授、名古屋大学名誉教授)

13:55 歯学分野の展望と大型研究計画
佐々木啓一 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院歯学研究科長・教授)

14:10 薬学分野の展望と大型研究計画
入村 達郎 (日本学術会議連携会員、聖路加国際大学研究センター特別顧問・医療イノベーション部部長)

14:25 環境学分野の展望と大型研究計画
石川 幹子 (日本学術会議第三部会員、中央大学理工学部人間総合理工学科教授)

14:40 数理科学分野の展望と大型研究計画
楠岡 成雄 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院数理科学研究科教授)

14:55 物理学分野の展望と大型研究計画
伊藤 早苗 (日本学術会議第三部会員、九州大学副学長・応用力学研究所教授)

15:10-15:25 休憩

15:25 地球惑星科学分野の展望と大型研究計画
大久保修平 (日本学術会議第三部会員、東京大学地震研究所教授・高エネルギー素粒子地球物理学研究センター長)

15:40 情報学分野の展望と大型研究計画

西尾章治郎（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授）

15:55 化学分野の展望と大型研究計画

栗原 和枝（日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授）

16:10 総合工学分野の展望と大型研究計画

小長井 誠（日本学術会議第三部会員、東京工業大学大学院理工学研究科教授）

16:25 機械工学分野の展望と大型研究計画

岸本喜久雄（日本学術会議第三部会員、東京工業大学大学院理工学研究科教授）

16:40 電気電子工学分野の展望と大型研究計画

石原 宏（日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授）

16:55 土木工学・建築学分野の展望と大型研究計画

和田 章（日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授）

17:10 材料工学分野の展望と大型研究計画

前田 正史（日本学術会議第三部会員、東京大学理事・副学長、生産技術研究所教授）

17:25 閉会挨拶

長野 哲雄（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事）

(提案12)

日本学術会議主催学術フォーラム「男女共同参画は学問を変えるか？」の開催について

1. 開催日時 平成26年5月31日(土) 10:00~18:00

2. 後援

日本女性学会、日本フェミニスト経済学会、国際ジェンダー学会、ジェンダー法学会、ジェンダー史学会、日本語ジェンダー学会、人文社会科学系男女共同参画学協会連絡会設立準備会、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、明治大学法科大学院ジェンダー法センター、明治大学情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター、一橋大学大学院社会学研究科ジェンダー社会科学研究センター、早稲田大学ジェンダー研究所、東京女子大学女性学研究所、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所、大阪府立大学女性学研究センター、京都橘大学女性歴史文化研究所、愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所、立教大学ジェンダーフォーラム、北海道大学大学院文学研究科応用倫理研究教育センター、イメージ&ジェンダー研究会、女性科学研究者の環境改善に関する懇談会、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク

3. 開催場所 日本学術会議講堂

4. 開催趣旨

女性の研究者が学問の世界に進出して久しい。これまで女性の少なかった理工系の分野でも女性研究者の育成が叫ばれるようになった。他方、学問の領域にジェンダー視点を持ちこむジェンダー研究も各分野でいちじるしい進展を見るようになった。にもかかわらず学問分野における男女共同参画は、かならずしもジェンダー研究とは親和性が高くないように見える。それどころか、職場の男女共同参画と同様、学問のディシプリンに影響を与えない範囲で、女性の参加が歓迎されているようにも思える。はたして、真理の奉仕者としての研究者は、ジェンダーを問わず同じ能力を発揮することが期待されているのだろうか？それとも女性が参入することによって、学問の組織、内容、アプローチ、評価基準等に何らかの変化が起きるし、また起こす必要があるのだろうか？このシンポジウムでは、女性研究者の参加が学問の世界を変容させる可能性と限界について、各分野の経験にもとづいて、真摯な検討を行いたい。

5. 次第(予定)

司会：後藤 弘子(日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院専門法務研究科教授)、大沢 真理(日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授)

(午前の部)

10:00~10:20

趣旨説明：「男女共同参画とジェンダー研究の近くて遠い関係」

上野千鶴子（日本学術会議第一部会員、東京大学名誉教授）

10：20～10:40

第1 報告：「学術分野における男女共同参画のこれまでの取り組み状況」

小舘香椎子（日本学術会議連携会員、日本女子大学名誉教授）

10:40～11:10

第2 報告：「学協会における男女共同参画の現状 大学の調査結果から」

有信 睦弘（日本学術会議第三部会員、東京大学監事）

11:10～11:35

第3 報告：「学術における男女共同参画の現状とその評価 学協会調査結果から」

新井 民夫（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学教育イノベーションセンター教授）

島 直子（首都大学東京ダイバーシティ推進室特任研究員）

11:35～12:00

第4 報告：「学術分野における男女共同参画の現状と評価と課題」

江原由美子（日本学術会議第一部会員、首都大学東京大学院人文科学研究科教授）

12:00～13:00 休憩

（午後の部）

13:00～15:30

第1 報告：「男女共同参画は社会科学を変えるか？」

岡野 八代（日本学術会議連携会員、同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科教授）

第2 報告：「男女共同参画は人文科学を変えるか？」

和泉 ちえ（千葉大学大学院人文社会科学研究科教授）

第3 報告：「男女共同参画は生命科学を変えるか？」

桃井真里子（日本学術会議第二部会員、国際医療福祉大学副学長）

第4 報告：「男女共同参画は人工物科学を変えるか？」

中西 準子（独立行政法人産業技術総合研究所フェロー）

15:30～16:00 休憩

16:00～17:30

討論：加藤万里子（慶應義塾大学理工学部教授）
貴堂 嘉之（一橋大学大学院社会学研究科教授）
藤垣 裕子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

17:30～18:00

閉会挨拶：まとめ「男女共同参画は学問に何をもたらすべきか？」
辻村みよ子（日本学術会議第一部会員、明治大学法科大学院教授）

※公開シンポジウム「男女共同参画は学問を変えるか」（第187回幹事会にて開催決定）を学術フォーラムに変更して開催。

(提案 13)

日本学術会議主催学術フォーラム「国際リニアコライダー (ILC) 計画」の開催について

1. 開催日時 平成 26 年 6 月 23 日 (月) 13:00～17:00

2. 開催場所 日本学術会議講堂

3. 開催趣旨

本フォーラムは、平成 25 年 9 月 30 日に公表した、文部科学省研究振興局長からの審議依頼への回答「国際リニアコライダー計画に関する所見」を基に、学術コミュニティでの継続的検討 (followup) を行うことを目的とする。学術会議に設置された検討委員会は、回答の総合的所見の中で「ILC 計画を我が国で実施し高い成果を挙げるための諸条件を余すところなく検討した上で、学術コミュニティ全体の合意形成、さらには国民の理解を求めることが必要である。」とし、検討すべき重要課題を挙げている。

本フォーラムには、計画推進母体からだけでなく、広く学術コミュニティからの参加を促し、本計画の学術的、社会的な意義と課題について率直な意見交換を行う。本企画が、ILC 計画のような超大型国際科学技術プロジェクトを我が国で推進することの是非について、学術界として合意を形成するための一助となることを期待する。

4. 次 第 (予定)

1. はじめに：

家 泰弘 (日本学術会議副会長・第三部会員、東京大学物性研究所教授)

2. ILC でのサイエンス：

村山 齊 (日本学術会議連携会員、東京大学国際高等研究所数物連携宇宙研究機構機構長・特任教授)

3. ILC 加速器：

山下 了 (東京大学素粒子物理国際研究センター准教授)

4. ILC 計画推進の国際体制：

駒宮 幸男 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授)

5. 近傍の科学者として：

橋本 和仁 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻教授)

6. 人文社会学の観点から：

今田 高俊（日本学術会議第一部会員、青山学院大学アジア国際センター客員教授）

7. 地域・環境の観点から：

石川 幹子（日本学術会議第三部会員、中央大学理工学部人間総合理工学科教授）

8. 質疑応答と全体討議：コーディネーター

相原 博昭（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

(提案14)

日本学術会議主催学術フォーラム「立法システム改革と立法学の再編」の開催について

1. 開催日時 平成26年7月6日(日) 13:00～17:00
2. 共 催 科研費助成共同研究体「立法システム改革の立法理学的基盤構築」
3. 後 援 なし。ただし、日本法哲学会など、日本学術会議法学委員会立法学分科会委員の関係諸学会に広報活動の協力を依頼する予定。
4. 開催場所 日本学術会議講堂

5. 開催趣旨

55年体制崩壊後、現代日本の議会民主政は幾多の曲折を経つつ、政権交代により政治が大きく変動する時代を迎えている。それとともに、国論を分断するような重要な問題について矢継ぎ早に法改正が断行され、この傾向を助長する方向に日本の立法システムも変動しつつある。本フォーラムでは現代日本の議会民主政とその下での立法システムのこのような変動が孕む問題点を解明し、ありうべき改善方法を考案し、立法システム改革の指針を示しうる学への立法学の再編について協議する。本フォーラムの中心主体は法学委員会立法学分科会であるが、同分科会は、井上委員長が代表を務める立法学についての科研費共同研究組織との協働により、第20期から3期に及ぶその活動成果を、共同論集『立法学のフロンティア』全3巻として近日刊行する予定で、本フォーラムは、その成果を踏まえて、現代日本が直面する喫緊の立法学的課題について、社会に問題提起することを目的としている。

6. 次 第 (予定)

司会 (討論コーディネーターを兼ねる) :

井田 良 (日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学法務研究科教授)

松原 芳博 (日本学術会議連携会員、早稲田大学大学院法務研究科教授)

13:00～13:10 開会挨拶

日本学術会議会長又は副会長 (予定)

13:10～13:20

趣旨説明：「立法システム改革と立法学の再編」

井上 達夫 (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

13:20～13:45

報告： 「立法システムの基盤変動とその問題点」

川崎 政司（参議院法制局、慶應義塾大学大学院法務研究科教授）

13:45～14:10

報告： 「議会民主政の変動と立憲主義の危機」

西原 博史（日本学術会議連携会員、早稲田大学社会科学部教授）

14:10～14:35

報告： 「熟議民主主義と立法システム改革」

齋藤 純一（日本学術会議連携会員、早稲田大学政治経済学術院教授）

14:35～14:50

コメント：「政治の視点から」

鈴木 寛（前参議院議員、元文部科学省副大臣、東京大学公共政策
大学院教授）

14:50～15:05

コメント：「憲法の視点から」

高見 勝利（上智大学大学院法学研究科教授）

15:05～15:15 休憩

15:15～16:50

パネル・ディスカッション：

報告者・コメンテーター全員参加

コメンテーターへの報告者の応答（1人5～10分）

その後、フロアとの自由討議

16:50～17:00

閉会挨拶：まとめ「本フォーラムの学術的・社会的意義」

井田 良（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学法務研究科教授）

(提案15)

日本学術会議主催学術フォーラム「減災の科学を豊かに」の開催について

1. 開催日時 平成26年7月20日(日) 13:00~16:45

2. 開催場所 日本学術会議講堂

3. 開催趣旨

東日本大震災は、災害が与える影響が、一人ひとりの被災者それぞれに異なることを改めて浮き彫りにした。被害や復興において差異を生み出す要因は、ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、障害や病気の有無・種類、国籍・母語、働き方や家族形態、ケア責任の有無・程度、地域の社会的ネットワークなどであり、それらが総合された自治体の減災力である。地域のレジリエンスを増強する取り組みも、そうした要因を組み込むことで、有効性を増すことができる。これらの要因を視野に入れた減災・応急対応・復興支援と調査研究は、日本では、多様性・ジェンダー配慮の視点を持つ少数の災害対応実践者と研究者によって、東日本大震災を契機に本格的に開始された。その後、災害対応や復興の主流である諸分野において、実践面および研究面で、多様性・ジェンダー配慮の視点はいかに取り込まれているだろうか。

本フォーラムは、日本における災害の科学的研究および災害対応・復興に多様性・ジェンダー配慮の視点が導入された事例から、その学術的成果および政策・実践へのインパクトを理解する。また、今後、この視点が導入されることで大きな成果を上げられると思われる防災・復興関連諸科学においても、同様の貢献ができるよう、多様性・ジェンダー視点と個別の災害諸科学の接点を探ることが目的である。

4. 次第(予定)

司会 大沢 真理 (日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授)

(1) 開会挨拶

大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長)

(2) 開催趣旨説明・問題提起

池田 恵子 (日本学術会議特任連携会員、静岡大学教育学部教授)

(3) 基調講演 (45分)

「災害とジェンダー研究の貢献と展望」

Elaine Enarson (independent researcher)

(4) 報告

I 多様性・ジェンダーの視点で見た東日本大震災

今井 照 (福島大学行政政策学類教授)

李 善姫 (東北大学東北アジア研究センター研究員)

II パネルディスカッション：災害関連諸科学・政策科学は多様性・ジェンダー

をどう見たか

司会：大沢 真理（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授）

保健師活動・介護福祉

鈴木るり子（岩手県立看護短期大学地域看護学教授）

災害社会学、脆弱性論の観点から

浦野 正樹（早稲田大学文学学術院教授）

地域自立・多様性

今井 照（福島大学行政政策学類教授）

居住法学

佐藤 岩夫（日本学術会議連携会員、東京大学社会科学研究所教授）

防災教育・地域防災

矢守 克也（京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授）

(提案16)

日本学術会議主催学術フォーラム「研究倫理教育プログラム」の開催について

1. 開催日時 平成26年7月29日(火) 14:00～17:00
2. 共催 文部科学省、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人科学技術振興機構
(調整中)
3. 開催場所 日本学術会議講堂

4. 開催趣旨

科学と科学研究は社会と共に、そして社会のためにある。このため、研究者が主体的かつ自律的に研究活動を進めるためには、社会の信頼と負託を得て科学の健全な発達を進めることが求められる。つまり、科学がその健全な発達・発展によってより豊かな人間社会の実現に寄与するためには、研究者がその行動を自ら厳正に律するための研究倫理を確立する必要がある。

もちろん、すべての科学研究に当てはまる普遍的な方法は存在しない。研究倫理を確立するための具体的な方法は研究分野によって異なる。しかし、それでも、各分野の研究を行う上での研究倫理を考える際に、すべての研究者が共通して持つべき価値観がある。こうした認識の下に、研究者個人の自律性に依拠する、すべての分野に共通する必要最小限の研究倫理には、研究者の責務、公正な研究、法令の遵守が含まれる。こうした目的のために、この度、様々な分野に共通する研究倫理を教育するための標準的なプログラムを作成したので、本学術フォーラムで公開するとともに、皆様からのご意見を伺い、より良いものにしていくことができると考えている。

5. 次 第 (予定)

開会挨拶

14:00-14:10 大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長)

趣旨説明

14:10-14:20 浅島 誠 (日本学術会議連携会員、独立行政法人日本学術振興会理事)

報告

14:20-14:30 文部科学省関係者 (調整中)

14:30-14:40 渡邊 淳平 (独立行政法人日本学術振興会理事)

14:40-15:00 小林 良彰 (日本学術会議副会長・第一部会員、慶應義塾大学法学部教授)

15:00-15:30 市川 家國 (信州大学特任教授)
15:30-15:40 笠木 伸英 (日本学術会議連携会員、独立行政法人科学技術振興機構
上席フェロー)

休憩 15:40-15:50

ラウンドテーブル

15:50-16:50 松尾 泰樹 (文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長)
浅島 誠 (日本学術会議連携会員、独立行政法人日本学術振興会
理事)
市川 家國 (信州大学特任教授)
相原 博昭 (日本学術会議第三部会員、東京大学副学長)
司会 : 小林 良彰 (日本学術会議副会長、慶應義塾大学法学部教授)

閉会挨拶

16:50-17:00 大竹 暁 (独立行政法人科学技術振興機構理事)

(提案17)

公開シンポジウム「大学で学ぶ社会学とは：社会学分野の参照基準を考える」
の開催について

1. 主催 日本学術会議社会学委員会社会学分野の参照基準検討分科会
2. 共催 日本社会学会 (予定)
3. 後援 立教大学社会学部
4. 日時 平成26年6月8日(日) 13:00~17:00
5. 場所 立教大学池袋キャンパス 太刀川記念会館3階多目的ホール
6. 分科会等 開催予定
7. 開催趣旨

「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準・社会学分野」の素案を提示し、学会内外の多様な意見を聴取し、議論を深めて「社会学分野の参照基準」に生かしていくことを目的に開催する。

8. 次第

総合司会・開会挨拶：

落合恵美子* (日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授)

第1部 13:10~14:10

基調報告(1)「大学教育の分野別質保証と参照基準」

北原 和夫 (日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院教授)

基調講演(2)「多様化する社会学教育」

井腰 圭介* (日本学術会議特任連携会員、帝京科学大学子ども学部子ども学科教授)

工藤 保則 (龍谷大学社会学部教授)

休憩

第2部

パネルディスカッション「社会学と社会の接点」 14:20~17:00

司会 江原由美子* (日本学術会議第一部会員、首都大学東京大学院人文科学研究科教授)

1. 分科会報告「社会学分野の参照基準案について」
笹谷 春美*（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）
2. 「社会学からのコメント」
鳥越 皓之（日本社会学会会長、早稲田大学人間科学学術院教授）
3. 「社会学系コンソーシアムからのコメント」
4. 「社会学外部からのコメント」
周藤由美子（ウィメンズカウンセリング京都）
5. 「社会学外部からのコメント」
医療・看護教育関係者

質疑・応答

総括・まとめ：友枝 敏雄*（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科学研究科長・教授）
奥村 隆*（日本学術会議特任連携会員、立教大学社会学部学部長・教授）

閉会挨拶：遠藤 薫*（日本学術会議連携会員、学習院大学法学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印は主催分科会委員)

(提案18)

公開シンポジウム「職務発明制度と科学者コミュニティー：大学・研究機関における発明の望ましい取扱い」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議科学者委員会知的財産検討分科会
2. 共 催： 未定
3. 後 援： 社団法人日本知財学会 他
4. 日 時：平成26年6月14日（土）13：00～17：00
5. 場 所： 日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

特許法35条に規定される職務発明制度の改定が議論されている。現行の職務発明制度は、特許を受ける権利は発明者に発生するが、職務発明である場合は、勤務規則その他の定めによって雇用者に譲渡することができる制度となっている。特許を受ける権利を承継するにあたっては、雇用者に対価支払い義務を課している。この制度に対して現在産業界からは、企業による特許の活用は組織的なものであり、発明者だけに対価を支払うことを義務付ける制度が現状に合わないということから、特許を受ける権利を雇用者である法人に発生させて、さらに対価支払義務もなくすことを提言している。現在この方向性を含む法改正の検討が閣議決定され、産業構造審議会の知的財産政策部会の小委員会で議論が始められている。

しかし大学等の研究機関に所属する研究者のおかれた環境は、職務に基づき優れた発明を行えば待遇に反映する企業の環境とは大きく異なり、かつ大学等は自ら事業化することはないことから、一律に大学等の法人に特許を受ける権利を帰属させることは、むしろ実情にそぐわない面があるとの指摘がなされている。

本シンポジウムでは、科学者コミュニティーの祖属する組織の発明をどのように扱うべきなのか、その場合の制度や仕組みはどのようなものが望ましいのかについて、議論を行うことを目的とする。

8. 次 第：

- 開会挨拶 有信 睦弘*（日本学術会議第三部会員、東京大学監事）

●政府による検討状況説明 特許庁

●パネル討論

モデレーター 渡部 俊也* (日本学術会議特任連携会員、東京大学政策ビジョン
研究センター教授)

パネリスト 保立 和夫* (日本学術会議第三部会員、東京大学工学系研究科教授)

上野 剛史 (日本経団連知的財産委員会企画部会委員、日本 IBM 理
事・知的財産部長)

三尾美枝子 (弁護士)

他 検討中

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案19)

公開シンポジウム「科学技術者と考えるこれからのエネルギー
～化学の夢を明日のエネルギーと社会につなげる工学～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・化学工学分科会、公益社団法人化学工学会
2. 後 援： なし
3. 日 時：平成26年6月20日（金）13：00～17：00
4. 場 所： 日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定なし（ただし、同分科会エネルギーから見た持続可能社会構築に関する検討小委員会を開催予定）

6. 開催趣旨：

次世代のエネルギーシステムをどのように設計し、実現するかは、我が国のみならず、世界的に極めて重要な論点となっている。そのためには、科学的視点に基づく客観的かつ長期的な展望が必要である。加えて、経済性、安定供給、環境適合性や安全性確保といったエネルギーシステムが満たすべき要件の間に存在するトレードオフを打破するための技術革新や制度設計が重要である。

本シンポジウムでは、様々なシナリオの下でのエネルギー需給見通しやエネルギーシステムの課題、これまでの技術開発事例や、現在の研究開発の推進状況を踏まえたうえで、今後、研究開発や技術導入を促進する方策は何か、研究開発を進めるべき技術をどのように特定するか、次世代のエネルギーシステムの設計や実現のために科学技術者はどこまで何に貢献できるのかについて議論し、認識を共有する。特に、日本が強みを有する化学から生まれた夢ある技術を、工学の力で社会に実装し、豊かで安心な暮らしを可能とするための道筋や隘路について考えていきたい。

8. 次 第：

13：00 開会

開催趣旨 北川 尚美*（日本学術会議連携会員、東北大学准教授）

13：10-14：00

講演1 「日本のエネルギー戦略における技術革新と国際展開」

岡崎 健（東京工業大学大学院理工学研究科教授）

14：00-14：50

講演2 「化学と工学の視点から考える研究シーズと社会実装」

松方 正彦 (早稲田大学理工学術院先進理工学研究科教授、化学工学会戦略企画センター・次世代エネルギー社会検討委員会委員)

14:50-15:00 休憩

15:00-15:50

講演3 「次世代エネルギー社会における科学技術の役割と政策の役割」

植田 和弘 (京都大学大学院経済学研究科教授)

15:50-16:30

講演4 「次世代エネルギー社会に向けた根拠に基づく議論と技術実装への挑戦～」

古山 通久 (九州大学稲盛フロンティア研究センター教授、化学工学会戦略企画センター・次世代エネルギー社会検討委員会委員)

16:30-16:50

総合討論 藤岡 恵子* (日本学術会議連携会員、(株)ファンクショナル・フルிட்ட[®]代表取締役)

16:50 閉会挨拶 加藤 之貴 (東京工業大学原子炉工学研究所准教授、化学工学会戦略企画センター・次世代エネルギー社会検討委員会委員長)

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案20)

史料保存利用問題シンポジウム「アーキビスト認定制度をめぐる現状と公文書管理制度」の開催について

- 1 主催 日本学会議史学委員会
- 2 共催 日本歴史学協会
- 3 日時 平成26年6月28日(土) 13:30～17:30
- 4 場所 駒澤大学 駒沢キャンパス1号館 1-204教場
- 5 委員会等の開催 開催予定なし
- 6 開催趣旨

日本歴史学協会では、文書館・資料館等における専門職(アーキビスト)問題に、長年取り組んできている。そのような中で、昭和62年の「公文書館法」の成立を始め、平成23年の「公文書管理法」の施行に至るまで、わが国の史料保存利用の在り方にとって法的な整備が進展した。しかし、その一方でアーキビストの養成や資格・待遇に対する制度的保証については依然として甚だ不十分なままであり、さらに運動の継続・強化が必要な状況である。

こうした中、平成24年度に日本アーカイブズ学会によるアーキビスト認定制度が発足した。これは、アーキビストの国家資格の見通しがつかないなかで、資格認定のひとつの突破口としての意義を有するものといえよう。そこで、本シンポジウムでは、日本アーカイブズ学会によるアーキビスト認定制度の発足の経緯や、第1回・第2回の認定をへての課題等について報告をお願いするとともに、専門職問題も含め地方自治体の公文書館政策の現状について報告をお願いした。これによって、アーキビスト問題をめぐる議論を深める機会にしたい。

一方、昨年末の国会で強行成立した「特定秘密保護法」については、「公文書管理法」の趣旨にも逆行し、史料の保存利用の在り方、アーカイブズ・アーキビストの機能・役割に重大な影響を与えかねない。施行後5年を目途に見直すと言われていた「公文書管理法」の見直しに、「特定秘密保護法」がどのような影響を与えるかも視野に入れる必要がある。そこで、「特定秘密保護法」と公文書管理制度に関する報告をお願いし、アーカイブズの観点から同法の問題点を検証することをもう一つの課題としたい。

以上の報告・議論によって、わが国におけるアーキビスト問題の現状を改めて認識するとともに、「公文書館法」の附則2の撤廃を含むアーキビスト制度の進展を図り、アーカイブズをめぐる環境整備に資することを、本シンポジウムの目的とした

い。

7, 次 第

開会挨拶

木村 茂光* (日本学術会議第一部会員、帝京大学文学部教授)

報告

- ① 石原 一則 (学習院大学大学院アーカイブズ学専攻非常勤講師)
「学会登録アーキビスト制度について」
- ② 富田 健司 (芳賀町総合情報館)
「地方自治体における公文書館政策の動向—条例制定、公文書館機能、専門職—」
- ③ 瀬畑 源 (都留文科大学非常勤講師)
「特定秘密保護法と公文書管理制度」

全体コメント

高埜 利彦* (日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授)

閉会挨拶

廣瀬 良弘 (日本歴史学協会会長 駒澤大学学長)

8, 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の報告者等は、主催委員会委員)

(提案 21)

公開シンポジウム「法の世界とジェンダー司法と立法を変えることはできるのか？」の開催について

1. 主催：日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会、社会学委員会複合領域ジェンダー分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会
2. 後援：ジェンダー法学会、日本社会保障法学会、日本法政学会、民主主義科学者協会法律部会、ジェンダー史学会、日本人権教育研究学会、日本家族〈社会と法〉学会、日本法社会学会、明治大学法科大学院ジェンダー法センター、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター
3. 日時：平成26年6月28日（土）13：00～17：00
4. 場所：早稲田大学9号館5階第一会議室
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：

国際的なジェンダー主流化は、法の世界にも改革をもたらそうとしている。日本の司法や立法は、この要請にどこまで応えられるのか。ジェンダー平等を託す裁判の動向は、司法におけるジェンダー・バイアスに歯止めをかけられるのか。ジェンダー関連の法改正、法学専門教育にジェンダー視点を導入する試みは、どこまで実を結びつつあるのか。司法改革から10年。この間の変化を分析しながら、法の世界をめぐる現状をジェンダー視点から検証する。
7. 次第：

13:00～13:05
開会挨拶・趣旨説明
浅倉むつ子*（日本学術会議第一部会員、早稲田大学大学院法務研究科教授）

13:05～14:55
報告1 「法の世界におけるジェンダー主流化」
後藤 弘子*（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院専門法務研究科教授）
報告2 「セクシュアル・ハラスメントをめぐる法の動向」
武田万里子*（日本学術会議連携会員、津田塾大学教授）

- 報告3 「婚外子差別をめぐる裁判」
吉田 克己*（日本学術会議第一部会員、早稲田大学大学院法務研究
科教授）
- 報告4 「法科大学院におけるジェンダー法講義の経験から」
角田由紀子（日本学術会議特任連携会員、角田愛次郎法律事務所弁護士）
- 報告5 「ジェンダー法学教育の現状と可能性」
二宮 周平*（日本学術会議連携会員、立命館大学法学部教授）
三成 美保*（日本学術会議連携会員、奈良女子大学教授）

14:55～15:10

休憩

15:10～15:50

コメント 井上 達夫（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院法学政治学
研究科教授）

辻村みよ子*（日本学術会議第一部会員、明治大学法科大学院教授）

15:50～16:50

討論

16:50～17:00

閉会挨拶 広渡 清吾*（日本学術会議連携会員、専修大学法学部教授）

司会 古橋エツ子*（日本学術会議連携会員、花園大学名誉教授）

水島 郁子*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院高等司法研究
科教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案22)

平成 26 年度日本学術会議中部地区会議主催学術講演会「地方から世界を目指す
先端研究—分子イメージングと遠赤外光—」の開催について

1. 主 催 日本学術会議中部地区会議
2. 共 催 福井大学
3. 日 時 平成26年7月4日(金) 13:00～16:00
4. 場 所 福井大学(福井市文京3丁目9番1号)
5. 次 第
 - (1) 13:00～13:10 開会挨拶
眞弓 光文(福井大学長)
 - (2) 13:10～13:20 主催者挨拶
巽 和行(日本学術会議第三部会員・中部地区会議代表幹事、名古屋大学物質
科学国際研究センター特任教授)
 - (3) 13:20～13:30 科学者との懇談会活動報告
丹生 潔(中部地区科学者懇談会幹事長)
 - (4) 13:30～15:55 学術講演会の演題及び演者
 - ・講演「未定」
日本学術会議会長又は副会長
 - ・講演「革新的な分子イメージング技術による臨床画像診断」
岡沢 秀彦(福井大学高エネルギー医学研究センター長)
 - ・講演「未開の電磁波—遠赤外光源—の開発と新しい研究の開拓」
齊藤 輝雄(福井大学遠赤外領域研究開発センター教授)
 - (5) 16:00 閉会挨拶
未定